

明石のまちづくり

AKASHI NO MACHIDUKURI

第4号

2018年10月

一 発 行

明石市連合まちづくり協議会

編集：広報部

連絡先：明石市コミュニティ推進課

TEL (078) 918-5004

明石市連合まちづくり協議会のスローガン

まちづくり ゆめづくり

校区まちづくり組織

和坂校区の取り組み

明石市内の各小学校校区では、それぞれの地域の実情に合わせたまちづくりを進めています。広報紙「明石のまちづくり」では、連合まちづくり協議会の広報部が取材した先進的な活動を紹介しています。

和坂校区まちづくり協議会（和坂まち協）は、2016年に和坂校区連合協議会を改組して発足しました。

以前は、自治会長で構成される幹事会と、事業ごとに立ち上げる実行委員会によって運営されていましたが、現在は通年で活動する5つの部会（生活・安全部、環境・衛生部、健康・福祉部、文化・交流部、広報部）を中心とした活動へ移行しています。

具体的には広報紙「わくわくわさか」による校区まちづくりの普及啓発や健康づくりを兼ねた「街中探検ハイキング」、保育園、幼稚園、小学校と共同開催する「ふれあい餅つき大会」「自転車運転マナー講習」など多彩な事業が展開されています。

活発な部会活動が目立つ和坂まち協。この背景にはどんな試みや工夫があるのでしょうか。

誰でも参加できる組織へ

部会活動が活発な理由の一つには、地域住民は誰でも、「まちづくり推進員」として和坂まち協に参画できるという制度があります。以前は、自治会や構



5部会が合同で運営する納涼祭



成団体の代表者でなければ校区のまちづくり組織には参加できませんでしたが、今は「活動の主体は地域住民一人ひとり」と位置づけて、個人での参加を認めています。つまり、地域住民で部会活動などに関心があれば、いつでも参加できる仕組みになっているのです。

会長の茶谷さんは「写真が得意な方は広報部に所属してもらうなど、特技や趣味が活かせることが大事。そうすると、やりがいを持って地域活動に参加してもらえる」と参加しやすい組織づくりのコツを話されました。

部会が活性化する 仕組みの工夫

各部会が多彩な事業を展開している背景には、運営側の工夫もあるようです。

和坂まち協では、年度初めに各部会に一律で予算を渡すという仕組みを取っているそうです。これによって、『お金をもらったからには何かやらんといかん！』と各部会が一層創意工夫を凝らすという効果があつたと事務局長の入江さんはおっしゃられました。

また、他部会の取り組みを知るために年2回「部会報告・懇親会」を開くとのこと。ここで生まれた横のつながりは、5部会合同で運営する納涼祭などに活きるそうです。

活動をもっと広げていく

昨年には「まち協という組織そのものを知ってもらうのではなく、実際に地域課題などに取組む事業を知ってもらうことが大事」という考えから、各部会のビジョンを印字した、「タスキ」と「のぼり」を作成されたそうです。実際に、環境・衛生部はタスキを胸に清掃活動に



部会報告・懇親会



わさカー二と和坂まち協のみなさん

取り組んだり、日々の活動から和坂まち協の周知を図っているとのこと。

また今回の取材では、ゆるキャラ「わさカー二」も、和坂まち協が活動を広げるのに大きな役割を果たしているという話題に上がりました。

「地域の皆さんの募金で作られたわさカー二のきぐるみは、和坂のまちづくりのシンボル」と入江事務局長はその意義を語られます。地域の子ども達が名前やデザインに参加し、地域の力で実現したことは、まちづくりを進める上で大きな自信につながっておられるように見えました。

「まち協に参加してみたい」という人やまち協にとって『この人がいれば心強い』という人は地域の中にもっといるはず。そういった人をどうすれば発掘できるか考えていくことが大切だと思ふ。」と茶谷会長は締めくくられました。

様々な施策で地域住民を巻き込みながら、まちづくりを進める和坂まち協。これから、どのような展開が起こっていくのか楽しみです。

地域の特性を活かした まちづくりを進めよう



明石市連合まちづくり協議会

会長 安藤 正博

「明石市連合まちづくり協議会」が設立されて3年目となり、市内28小学校区がお互いに連携を図りながら行政との協働をさらに深めていくこととなります。

各小学校には古くからの伝統文化が息づいていたり、独自に特色ある文化を築いておられるところ、新旧の住民が混在して新しい生活空間を見いだしているところ、子どもの多いところ、少ないところなどそれぞれです。

「まちづくり」は、地域に皆さんが一緒になって、幸せのまちを創っていくものであり、その活動は画一的に考えることなく、各々の特性（個性）に応じた取り組みを大切にしたいものです。今後とも、地域のまちづくり活動にご理解とご協力をいただきますよう、よろしく願いいたします。

平成30年度明石市連合まちづくり協議会 役員

役 職	氏 名	所属団体名
会 長	安藤 正博	大久保まちづくり協議会
副会長	大西 功二	江井島まちづくり協議会
副会長	藤本 庸文	王子まちづくり協議会
総 務	伊藤 一	中崎まちづくりの会
会 計	茶谷 紀元	和坂校区まちづくり協議会
監 事	伊藤 一頼	二見北まちづくり協議会
監 事	小林 寛滋	藤江校区コミュニティ推進協議会
顧 問	小川 奉文	林校区コミュニティ推進協議会

校区まちづくり組織に関する福祉の団体・取り組み紹介

地域福祉への関心が高まるなかで、明石市内でも福祉の充実に取り組む団体や組織が多く活動しており、校区まちづくり組織との連携といった話題も多く上がるようになっていきます。

本特集では、そういった連携のヒントになるように、校区まちづくり組織に関係する福祉の団体・取り組みとその活動区域を抜粋して紹介します。

団体一覧

①民生委員・児童委員/②民生・児童協力委員 小学校区より小さい区域

民生委員・児童委員は、地域で福祉に関する身近な心配ごとの相談に応じ、専門機関や福祉サービスを紹介したり、必要なサービスを受けられるよう、関係機関との「つなぎ役」を担っています。民生・児童協力委員は地域住民の困り事等の情報を民生委員・児童委員に連絡する等のサポートをしています。

③自治会内の福祉部会 小学校区より小さい区域

近隣住民同士の助け合いを発展させて、地域福祉を担う部会を設置する自治会が増えています。ふれあいサロンの開催や、一人暮らしの高齢者向けの会食・配食サービスなどに取り組むといった事例がみられます。

④地区社会福祉協議会 概ね小学校区域*1

地域住民が抱えている様々な福祉課題に対する支援を行っています。自治会・町内会、高年クラブ、子ども会など地域の各種団体で構成され、地域福祉活動の推進を図っています。

⑤校区まちづくり組織 福祉部会 小学校区域

校区敬老会や校区検診の主催、校区見守りや福祉の啓蒙など、自治会や地区社会福祉協議会などと連携した地域福祉の充実に取り組んでいます。

⑥こども食堂 小学校区域*2

子どもたちが食事だけでなく地域のあらゆる世代の人と繋がり、学んだり遊んだりできる居場所として、校区まちづくり組織、地区社会福祉協議会、各種ボランティア団体など、多様な方によって運営されています。

⑦まちなかゾーン会議 中学校区域

地域住民の健康増進を図るため、健康行政部門や保健医療福祉関係者、地域住民組織の代表者等が連携し、地域の健康課題の解決を図っています。

⑧地域支え合いの家 一部の中学校区域*2

パイロット地区として3中学校区が選定され、地域総合支援の拠点として運営されています。介護や生活上の悩みなどの相談を受ける窓口となるとともに、子どもから高齢者まで誰でも利用できる居場所づくりなどを行っています。

その他

地域総合支援センター(市内6ヶ所)

高齢者だけでなく、障害者、子どもを含めた誰もが安心して暮らせる地域をつくるため、地域の総合的、包括的な相談対応の拠点として平成30年4月に設置されました。

市内ボランティア団体(市内様々な区域)

明石市内では多数の健康・医療・福祉に関わるボランティア団体が様々な区域で活動しています。また明石市社会福祉協議会やボランティアセンター、ウィズあかしなどがその支援を行っています。



活動区域

＜小学校区より小さい区域＞
(自治会・町内会など)

- ①民生委員・児童委員
- ②民生・児童協力委員
- ③自治会内の福祉部会

＜小学校区域＞

- ④地区社会福祉協議会*1
- ⑤校区まちづくり組織 福祉部会
- ⑥こども食堂*2

＜中学校区域＞

- ⑦まちなかゾーン会議
- ⑧地域支え合いの家*2

- * 1 大久保、高丘、魚住、魚住東、二見は中学校区単位で活動
- * 2 公的な制度や助成金を利用して地域住民によって運営されている団体・取り組み



ポイント!

自治会・小学校区・中学校区など、様々な区域それぞれに支援する団体や取り組みがあることで、きめ細かな支援ができています。

ポイント!

自治会と校区まちづくり組織など、異なる区域の団体が一緒に取り組む事例も増えてきている。団体間の連携・情報共有がより必要になるね。



広報部会より



(左から山村部会員、吉川部会員、小林部会長、長谷川部会員、立花部会員)

平成30年度明石市連合まちづくり協議会 広報部会

役 職	氏 名	所属団体名
部会長	小林 寛滋	藤江校区コミュニティ推進協議会
部会員	立花 正夫	山手校区まちづくり協議会
部会員	長谷川 正	朝霧校区まちづくり協議会
部会員	山村 宗夫	貴崎校区まちづくり協議会
部会員	吉川 正博	二見西コミュニティ推進協議会

広報部会では、校区まちづくり組織の取り組み紹介を始め、まちづくり役立つ情報の発信を行っています。

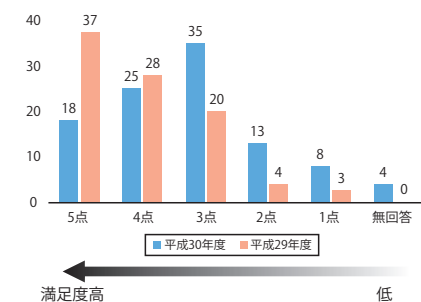
広報部会メンバーが新しくなりました

自治会部会より

平成30年6月2日(土)に市立勤労福祉会館で、自治会・町内会新会長研修会を開催しました。自治会長就任1年未満の対象者269名の内、127名が出席。自治会の役割や年間のスケジュールについての全体説明の後、昨年度初めて実施し、満足度の高かった意見交換会を、今年度も引き続き行いました。

意見交換会では、18グループに分かれて、新会長のみなさんの悩みや不安を共有する予定でしたが、時間を十分に与えることができませんでした。アンケート結果にもそのことが表れており、昨年度と比べて満足度の低いものとなりました。

この反省から、自治会長のみなさんに「参加してよかった」と思ってもらえるような研修会を目指し、来年度の内容について今後検討を進めます。



意見交換会についてのアンケート結果 (平成30年度・29年度)



研修会当日の様子

自治会・町内会新会長研修会

明石ケーブルテレビ〈海峡のまち明石〉放送中☆
「28校区のまちづくりシリーズ」



各校区の魅力やまちづくりの取り組みを紹介します。
【毎日】後8:00～8:15 ほか

アンテナ撤去無料
キャンペーン実施中!

新規ケーブルテレビ
ご加入で!!

明石ケーブルテレビ
ご加入のお問い合わせは
フリーコールまで!

0120-135-084